

南千住図書館・荒川ふるさと文化館大規模改修に係る基本的な考え方

施設概要

- ▶名称：荒川ふるさと文化館・南千住図書館
- ▶所在地：荒川区南千住六丁目63番1号
- ▶主要用途：図書館、郷土資料館(博物館)
- ▶延床面積：5,270.69㎡
- ▶構造：鉄筋コンクリート造
- ▶規模：地下1階、地上4階
- ▶竣工年月：平成10年3月

考え方策定の背景と意義

- ▶当施設は開館から約30年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいることに加え、当施設を取り巻く社会環境やニーズも大きく変化し、施設全体の機能アップが必要となっています。
- ▶融合施設ならではの強みを発揮することを念頭に、四半世紀先を見据え、時代のニーズの変化・発展に的確に対応できる大胆なゾーニングの変更をはじめ、大幅な機能の拡張を図り、「地域文化の交流・発信拠点」として魅力ある施設空間・環境を実現する必要があります。
- ▶大規模改修工事にあたり、限られた財源の中で当施設が持つ可能性を最大限に発揮するには、改修コンセプトや方向性を明らかにする必要があることから、この考え方を策定しました。

現状と課題

施設全体

老朽化設備の更新と融合施設としての魅力向上

- ▶設備の老朽化改善(空調、照明、受変電、給排水設備等)
- ▶バリアフリー化(トイレ、駐車場、サイン等)
- ▶交流・滞在機能の充実
- ▶連携事業の強化による融合施設としての魅力向上

南千住図書館

地域図書館としての役割や社会情勢の変化に対応した読書環境の創出

- ▶閲覧席等の増席
- ▶交流・滞在機能の充実
- ▶子育て世代向けの環境整備

荒川ふるさと文化館

より区民に親しまれ、区内外からの来場者に利用される郷土資料館へのバージョンアップ

- ▶より分かりやすく魅力的な情報の発信
- ▶来館しやすさと滞在快適性の向上
- ▶多様な区民ニーズへの対応
- ▶伝統工芸品の普及促進

◎ 基本理念 ◎

多様なニーズを持った区民が滞在や交流をし、気軽に文化に触れることができる施設の実現

南千住図書館・荒川ふるさと文化館大規模改修に係る基本的な考え方

基本理念の実現のための重点テーマ（改修の重点テーマ）

I 区民の多様なニーズに応じた滞在や交流ができる場所の創出

- ▶施設内の各所に様々な雰囲気を持った閲覧席やラウンジなどの新たな滞在スペースを設け、利用者が好きな場所を選択し、滞在することができる施設となるよう検討します。
- ▶利用者が飲食しながら読書などをすることができるラウンジを地下に設け、より滞在がしやすい施設となるよう検討します。
- ▶4階フロアを新たに図書フロアとして開放するとともに、図書資料の充実等を図り、更なる読書環境の整備を検討します。
- ▶荒川ふるさと文化館の常設展示室内において、既存の復元家屋を活用し、荒川区らしい下町の雰囲気の中で、従来実施できなかった遊び場イベントなどの交流ができるスペースを新たに設けることを検討します。

II 施設に立ち寄った区民が気軽に文化に触れることができる場所の創出

- ▶エントランスホールの吹抜け空間を、利用者が回遊と滞在ができる空間に変えるとともに、気軽に触れることのできる伝統工芸の展示や伝統工芸に関連する書籍を1階に配架する等、荒川区の文化、歴史や伝統工芸に親しみを感じてもらえる場所を創出することを検討します。
- ▶また、点在する伝統工芸品の展示を見ながら、伝統工芸品を購入することができるミュージアムショップの充実を図ります。
- ▶一部の閲覧席を吹抜けに面した場所に設け、1階で行われている展示や伝統工芸技術関連ワークショップに親しみを持ってもらうとともに、2つの機能を単に併設した施設ではなく、一体感があり、愛着を感じることを検討します。

III 世代にかかわらず、すべての人が利用しやすい施設

- ▶親子連れや車いす使用者がより利用しやすくなるよう、既存より拡張したエレベーターやバリアフリートイレの設置を検討します。
- ▶新たにベビーステーション等を設け、子育て世代の利用者が利用しやすくなるよう検討します。
- ▶車で来館する車いす使用者が利用しやすくなるよう、車いす使用者用駐車場を建物入口に近接した位置に配置を変更するとともに、親子連れ利用者などが容易に駐輪可能な平置き場の設置を検討します。
- ▶荒川ふるさと文化館の常設展示室内においては、実物展示とともにタッチパネル等のデジタルコンテンツの活用による展示方法を用い、子どもから大人まで自然と展示に興味を感じ、知識を深める新しい博物館体験のできる施設となるよう検討します。